

## S36b 51 望遠鏡を用いたブレーザー OJ287 の V,R,I-band 測光観測

鎌田麻里, 定金晃三, 勝浦真弓子, 田中謙一, 西山晋史, 住友那緒子, 黒崎恵, 中村健祐, 石井優子, 山中雅之, 溝口小扶里 (大阪教育大学), 新井彰 (広島大学)

BL Lac 型天体・OJ287 は最も観測されているブレーザーの一つで、確かな周期性が確認されている唯一のブレーザーである。特に可視光域において 100 年以上もの観測データがあり、12 年周期で増光現象を起こすと考えられている (Sillanpää et al.1988)。世界的な観測キャンペーン『OJ-94project』によりその増光が double-peak 構造をしており、二つのフレアの性質が異なることが分かった。電波域での観測から一つ目のフレアは熱的放射、二つ目のフレアはシンクロトロン放射による非熱的放射であると考えられている。様々なモデルが提唱されているが、未だ結論には至っていない。次回の可視光域でのフレアは 2006 年 10 月 1 日と 2007 年 11 月 21 日に起きると予想されている。

我々は大阪教育大学に設置された 51cm 反射望遠鏡と窒素冷却 CCD カメラを用いて、2005 年 1 月 20 日から 2006 年 6 月 7 日にかけて V,R,I-band での測光観測を行ってきた。OJ287 はまだバースト期に入っていないと考えられているが、観測期間中に数回の増光を観測した。特に 2005 年 10 月には 13.3 等 (R-band) まで明るくなり、また暗い時期は約 15 等まで暗くなった。今回は 54 夜分の観測結果を考察・報告する。